

2024 年 7 月 9 日

通貨ニュース

インドネシア:IDR 安は修正されるか～財政の先行き不透明感は継続～

7 月 9 日付の日経新聞朝刊は、「インドネシアルピアが持ち直し 対ドル 1 カ月ぶり高値」とした記事を配信している。確かに IDR 相場の現状を確認すると、6 月 21 日につけた安値に比べれば買い戻されているものの、水準としては非常に割安な状態が続いている(図表 1)。IDR 相場は米長期金利との相関性が非常に高いものの、年初来で確認すると、6 月以降その乖離が鮮明になっている(図表 2)。ペリー・インドネシア銀行(BI)総裁は 6 月の金融政策委員会で「USD/IDR の基本的価値(fundamental value)は 16000 を下回る」と述べていたが、米金利動向だけを見れば、理解できる発言だろう。IDR の買い戻しが遅れている要因は、①BI が通貨安に対し利上げではなく為替介入で対抗する意思を示しており投機筋の IDR 売りを招いていること、②財政の先行きの不透明感が IDR の重しになっていること、の 2 点が挙げられよう。

①に関しては本欄では割愛するが、上述の 6 月会合においても、「次の一手」が利下げであることがペリー総裁より明言されている。7 月 8 日にも、同氏は「10～12 月期に利下げ余地があるか確認するだろう」と述べている。このような環境下、6 月下旬には BI 高官より IDR 買い介入実施の示唆が行われるなど IDR 安けん制発言が見られたが、市場の反応は限定的であった。

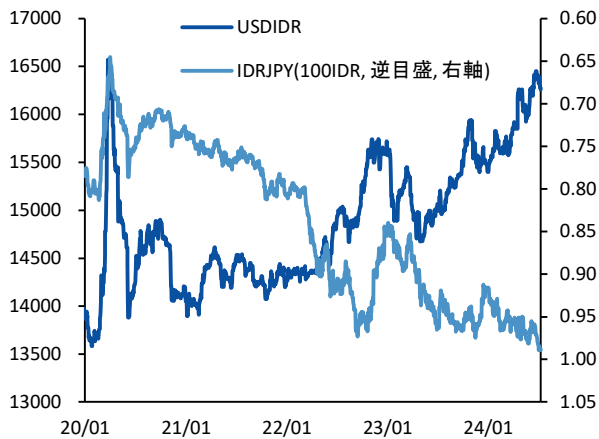
②に関しては、先週末インドネシア財政に関するヘッドラインが相次いでいるので、本欄で軽くまとめておきたい。まず 4 日、インドネシア議会において、2025 年の財政赤字見通しが 2.29%～2.82% (GDP 対比、以下同様)に目標範囲が拡げられた。従前、下限が 2.45%だったので、来年の財政赤字が予想より小幅になる可能性が示唆された、ということだ。5 日の IDR 高は、これが好感された可能性がある。

次に 8 日には、逆に IDR にとって逆風になりそうなヘッドラインが流れた。具体的には、スリ・ムルヤニ財務大臣は予算委員会において、2024 年の財政赤字見通しを、当初目標の 2.29%から 2.7%に引き上げることを公表した(図表 3)。見通しの変更は歳出増大が要因であり、今後の地方選挙におけるコスト増を織り込んでいたとのコメントが見られた。

インドネシアは新興国の中でも財政規律遵守への意識が非常に高く、政府債務比率、財政赤字いずれも良好な状態を長年に渡り守ってきた(図表 3、4)。もっとも、大統領交代に伴う政権移行チームは、学校給食の無償化を提案するなど一部財政拡張的な性格も持っており、10 月以降の新政権における財政運営には不透明感が拭えない。政権移行チームは財政規律遵守を強調しているものの、市場を安心させるには、8 月に提出される予定の 2025 年予算案が財政健全路線を支持する内容であることが求められるだろう。2025 年予算案が無難な内容になれば、市場の不安感は後退し、財政プレミアムによる IDR 安は解消されると見込んでいる。

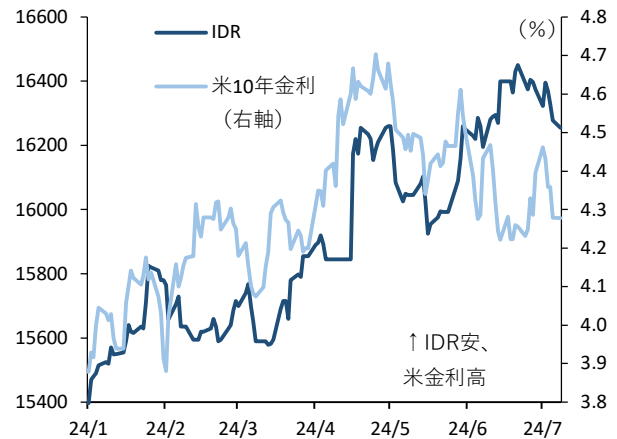
金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1: IDR 相場



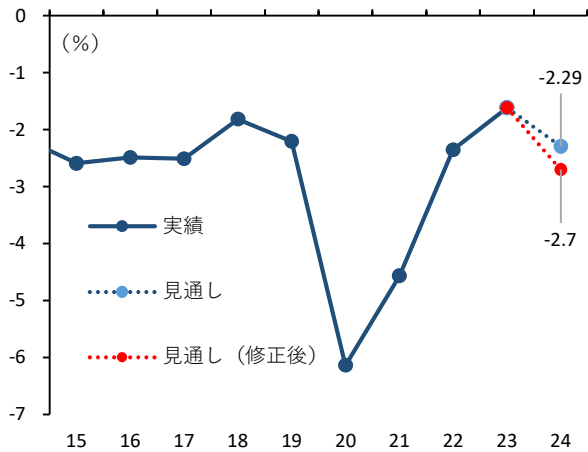
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: IDR 相場と米金利動向



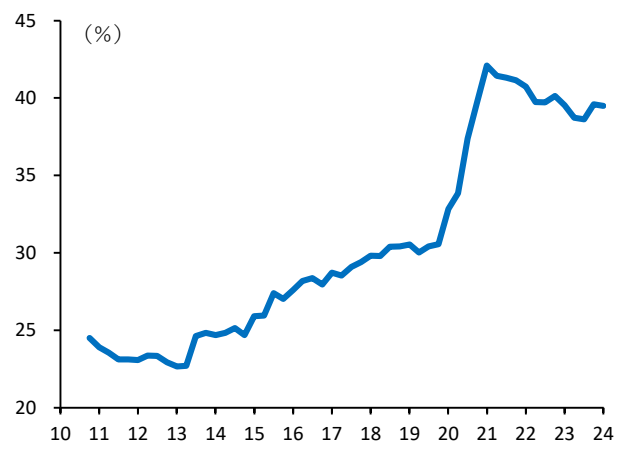
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: インドネシア財政収支(実績と見通し、GDP 比)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 一般政府の債務残高(GDP 比)



出所: Macrobond、みずほ銀行 ※GDP は過去 1 年間の合計を使用

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。